

学校における人権教育

自他の大切さを認めること

一人一人の子どもたちが、人権の意義・内容や重要性について理解し、「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること」ができるようになり、それが具体的な態度や行動に現れるとともに、人権が尊重される社会づくりに向けた行動につながるようになることを目標として、学校では取り組んでいます。

人権尊重の視点に立った学校づくり

目標達成のために、一人一人が大切にされる授業づくり、互いのよさや可能性を認め合える仲間づくり、安心して過ごせる学校・教室づくりを視点において取り組んでいます。

授業づくりでは、何より子どもたちが「勉強してよかった。分かった」と言えるように授業の改善を通して基礎基本の確実な定着を図り、自ら考える力を育て「授業に参加している」という実感を持たせたり、互いの話を最後まで聴く習慣や、一人一人が活躍する場をつくったりするなど「自分が必要とされている」と

いう実感を持たせています。仲間づくり、雰囲気づくりのためには、人の気持ちや立場を考えて自分の言動を考えさせたり、人の発言やよさや気づき学ぼうとする態度を育てたりしながら、子ども同士の間関係のあり方を学ばせています。

学習の作品には子ども自身の解説や教師の評価を添え、達成感や有用感を感じる掲示を行っています。

学校と家庭との連携

学校の取り組みだけでは十分ではありません。子どもを中心に据え、家庭と一緒に、子どもたちの社会性の育成を図っていく取り組みも行っています。

具体的に、「益城っ子『学びの姿勢』『生活のきまり』』というものを作成し、町内の小学校で利用しています。

これは平成23年に「町子どもたちの自立支援推進協議会」で定められ、学校と家庭で共通して取り組んでいるものです。

その中には、時間を守ること、あいさつ、返事、丁寧な言葉、聞き方などの項目が決

めてあります。これらの項目は子どもたちが周りの人と豊かな人間関係を築いていくためには必要なことです。日常生活の基本的なことを身につけていくことが、子どもたちの実践的な行動力を育てます。

共に手を携えて

子どもたちを育てるためには、地域のみなさんの支援が必要になってきます。子どもたちは地域の宝です。「子どもの笑い声が聞こえる町は発展する」とは、よく言われることです。地域の教育力によっても大きく左右されるものです。

町の小中学校では、地域住民の多くの人たちが参加されています。学校支援をいただいています。学校、家庭、地域の人たちに支えられた子どもたちは、将来にわたって地域の生活と文化を背負い、地域発展の礎になっていきます。

自分の人権を守り、他者の人権を大事にする子どもたちになるように、学校と家庭と地域とで共に手を携えて育てていきたいと思います。

益城町教育委員会

ふるさとの地名漫歩

歴史の変遷と地名

359

松本・高田両先生がどの説に立たれたかは不明ですが、仁王像再建に関する一連の常楽寺文書の読み下し文を紹介いたします。

「願ひ奉る口上の覚え」

当飯田山仁王門の儀天正年中兵乱の節、本堂は破却仕り居り候を慶安三年庚寅の正月妙應院御代たてまつり略り再興の存立にて建立御座候。当年まで七拾三年に罷り成り候り略り然る処に去る春仁王門共に焼失

寺仁王門は、春焼失の節、仁王門も焼失に及び候。仁王も京都に逃え置き候処此の頃下着致し候間、前々の通り仁王門御建て下され候様に常楽寺書付を此の間御取り次ぎ指し出し置かれ候。右門注仁王門の事の儀、前々の例の通り御建て下され候条、其の沙汰有るべく候。以上。

十月七日

片山九郎兵衛 殿 奉行所

北垣市郎左衛門 殿

仕り申し候に付き略り仁王造立の儀御免下され、京都大仏師方へ申し越しあはせ誂あはせえ申し候得ば急度出来仕り差し下し申し候。略り前々の如く（熊本藩直営事業の意味）御建立下され候様、口上書を以て願ひ奉り候。以上。

これら古文書から仁王像と仁王門の火災焼失報告、五寺組による再建嘆願、仁王像再彫刻、仁王門再建の熊本藩庁の許可など一連の動きと、現在の仁王像は京都仏師の作と分かります。

益城町文化財を訪ねる会

会長 松野國策

五寺組

光宗寺

光澤寺

浄恩寺

臨泉庵

片山九郎兵衛 殿

北垣市郎左衛門 殿

【注】

熊本藩の再建許可通知
上益城郡飯田山常楽



常楽寺仁王像 「ウン」の像